

And this hope will never disappoint...
Romans 5:5



HOPE^{PHILIPPINES} for LIVING



Children in CRISIS

危機の中の子どもたち
プロジェクト・レポート

2015

危機の中の 子どもたち Children in CRISIS



学校に通えない子ども——

およそ **400** 万人

6～14 歳では **5** 人に **1** 人

(フィリピン全国調査 2013 年)

学校に通っている小学生——

88% (教育省 2008 年)

マニラ首都圏では**6000**人の
子どもたちが**路上生活**をしている

(フィリピン社会福祉省 2013 年)

「お米を買うお金がないから
学校を辞めてお金をもらおうしかない」——

マリクリスちゃん (小学校 1 年で学校を辞めた 14 歳の女の子)

(CBN News マニラ 2006 年 11 月)

危機の中の子どもたち



子どもたちの未来のために
日本のマンガを通して心のケアを

このプロジェクト、カリトン・クラスルーム(手押し車の教室)はフィリピン教育省(DepEd)とエフレン・ペナフロリダ氏のダイナミック・ティーン・カンパニー(DTC)とのパートナーシップによっておこなわれました。



DepEd

フィリピン教育省
フィリピン行政機関



DTC

ダイナミック・ティーン・カンパニー
手押し車の教室主催団体



NLM

新生宣教団
教材提供団体



これまでの活動例
フィリピンのタクロバン市に被害をもたらした台風ハイエンの災害後、DTCはマンガ教材を支援活動で使い、マンガのイラストや内容が子どもたちに大人気でした。



■各団体の役割

- フィリピン教育省 (DepEd)
マニラ首都圏とミンダナオ島における手押し車教室の実施
- ダイナミック・ティーン・カンパニー (DTC)
手押し車の教室のボランティア教師と授業運営技術を提供
- 新生宣教団 (NLM)
道徳教育のための教材を提供

■プロジェクトについて

このプロジェクトは、DepEdの指揮する活動で、学校に通っていない子どもたちにDTCの「手押し車の教室」で週一回、6カ月間の教育を実施し、子どもたちに「学ぶことの楽しさ」を教え、子どもたちの正規な学校への復帰を目指します。

DepEdとDTCはマニラ首都圏とミンダナオ島で計8,000人の子どもにプログラムを提供し、NLMは今後数年にわたりこれらの地域にある52カ所の教室にマンガ教材の提供を続けていきます。

また、ミンダナオ島(南アグサン州、マギンダナオ州、ブキドノン州、北サンボアンガ州)で手押し車の教室を実施することにより、島の先住民の子どもたちに聖書に基づく価値観を定着させ、内戦の原因となっている子どもの誘拐を妨げようとしています。

手押し車の教室でマンガ教材の効果が大きい発揮されることが期待されます。

プロジェクトの目標

100 箇所
手押し車の教室 → 8000 危機の中の子どもたち





新生宣教団

教材提供団体

新生宣教団は1954年に設立された、福音文書を世界へ届ける印刷団体です。

2014年、フィリピンのタクロバン市に被害をもたらした台風ハイエンの復興支援プロジェクトでは「ザ・メサイア」を含むマンガ教材が日曜学校で用いられ、大きな成果をあげました。今回のプロジェクトでもこれらのマンガ教材がフィリピン教育省の認可を受け、道徳教育のテキストとして使われました。

新生宣教団とのパートナーシップ

新生宣教団はフィリピンのタクロバン市で実施したホープ・フォー・リビング フィリピンの働きにより、フィリピンで多くの団体と関わりを持つことができました。そのなかには当時タクロバン市で手押し車の教室を実地していたDTCも含まれていました。DTCは道徳教育にふさわしい教材として「ザ・メサイア」をはじめとするマンガ教材の導入を決定し、協力関係がスタートしました。試験導入を経てフィリピン教育省によってフィリピン全国に設立しようとしている手押し車の教室のために、マンガ教材が日本より提供されることとなりました。

■協力団体

フィリピン教育省(DepEd)

フィリピン行政機関

フィリピン教育省は、政策を立案、実施、調整し、フィリピンにおいて正規/非正規にかかわらず基礎教育プログラムを計画する行政機関です。教育省はDTCと協力し「危機の中にいる子どもたちが正規の学校に100パーセント戻り、(中略)子どもたち、特に路上生活をしている子どもたちの特殊な事情に応じる」ことを目指しています。

ダイナミック・ティーン・カンパニー (DTC)

手押し車の教室主催団体

ダイナミック・ティーン・カンパニー (DTC) は教育者のエフレン・ペナフロリダ氏の指導のもとに運営されている非営利団体です。ユニークな「手押し車の教室」をとおしてマニラ首都圏のスラム街や他国の貧困状況にある子どもたちに基礎教育を路上で施し、子どもたちの福祉と生活水準の向上のために活動を進めています。



写真上: NLM とDTC のスタッフ会議。左から、DTC ジェリメイ氏、エフレン氏、NLM 岩間総主事、NLM ウィルフレド・アソシエイト・ディレクター。

写真下: DTC とDepEd の活動開始時の様子。右からルイストロ教育省長官とエフレン氏。

エフレン・ペナフロリダ

「あなたが夢みる変化はあなたから始まります。そして、この世界が求めている変化は私たち一人一人から始まるのです」

ダイナミック・ティーン・カンパニー設立者のエフレン・ペナフロリダ氏は貧困とギャングがはびこるマニラ首都圏のカピテ市のスラム街で育ちました。



高校3年生の時にエフレン氏はいじめを受け、加害者に復讐するために高校を辞めてギャングの仲間に入ろうと考えました。

この時彼はクリスチャンの指導者であるクヤ・ボン牧師に出会います。彼は暴力ではなくクリスチャンの理念に基づいた教育がエフレン氏の人生を変えると諭します。

そこでエフレン氏は16歳の時、友人とスラム街で路上生活をしている子どもたちに教育を提供する「ダイナミック・ティーン・カンパニー」を設立しました。教育をとおして子どもたちがギャングとの関わりを避けるよう導く活動を始めたのです。

本や鉛筆、テーブル、椅子などを手押し車に載せてスラム街に運ぶ「手押し車の教室」を始め、ゴミ捨て場などで教室を開きました。この活動が認められ、2009年にCNNヒーロー・オブ・ザ・イヤーを受賞しました。

さらにフィリピン教育省の協力を得て、手押し車の教室の活動は現在ボランティア教師100人、手押し車は70台となり、今後フィリピン全土に教室を拡大していく予定です。2015年からは新生宣教団の提供するマンガ教材が道徳(モラルの形成)の授業に用いられています。



CNN 2009
HERO
 Of the Year



Empowering a Hero's Dream

- Community Leaders' Meet-Up
- Training Workshops
- Motivational Talks
- Press Conference

July 5th Sun → One Week → 12th Sun

Organized by



2015年7月、9月から始まるプロジェクトの支援を募るためエフレン氏が初来日しました。フィリピン大使館での記者会見や各地の教会訪問、セミナーなどを精力的にこなし、NHKの取材も受けました。

記者発表会

H.E. マヌエル・ロペズ大使出席のもと、東京のフィリピン大使館で記者発表会がおこなわれました。関連団体やメディアが招待され、エフレン氏からマンガを使ったプロジェクトに対するビジョンが語られました。

出席メディア：CGNTV、クリスチャントゥデイ、フィルジャップ・マガジン、GMA ニュース、ジーブニー・プレス、共同新聞、NHK ワールド、日経新聞、フィリピン・ダイジェスト、ピノイ・トリビュート



「貧困のなかにいる子どもたちにとって教育はとても優先度の低いものです。そこで私たちの団体は彼らのところに学校を持っていくことを思いつきました。手押し車を使って教材や本、おもちゃ、食べ物を載せて運びはじめました。子どもたちに勉強に対する熱意を再び得させ、学校に戻れるようにしたかったのです。」

日本は先進国であり、路上生活の子どもも見当たらない。とても裕福です。裕福で特権が与えられていることを知る必要があります。教育を受けたいけれど経済的な困難によって学校に通えない子どもたちに比べて教育を受けられるという恩恵を受けていることを知らなければなりません。」

「この本を子どもたちに見せるととても喜びます。彼らは笑顔で『テレビのキャラクターみたい』と言ってくれます。そのあとで本にあるメッセージを伝えるのです。」

エフレン・ペナフロリダ



「フィリピン人として私たちにできることはエフレン氏のような心を持つこと。それができれば、この社会において問題は少なくなるだろう。」

セサル・サントヨ / SEELS 社長



「エフレン氏の小さな貢献が彼の周りのコミュニティに大きな影響をもたらしました。今日彼は私たちが同じようにするためにどうすべきか教えるに来てくれました。」

ロペズ フィリピン大使

Efren Peñaflorida
 and friends

まきば幼稚園

エフレン氏はまきば幼稚園（東京）で日本の子どもたちのためにマンガ教材を使った体験レッスンをおこないました。

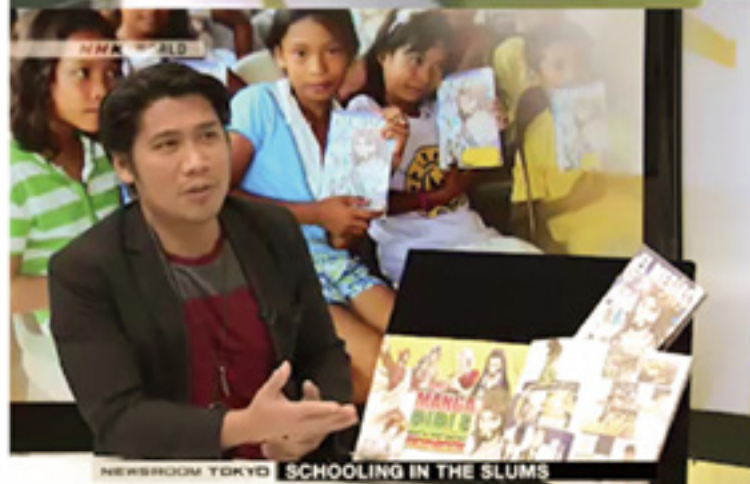
エフレン氏の訪問とレッスンについて語るまきば幼稚園の英語教師、エレノアさん（フィリピン出身）：

園長や保護者の皆様、子どもたちも皆エフレン氏のマンガ教材をとおした活動について聞くことができ、とても良い時間を過ごしました。マンガは日本で人気のメディアですが、日本の若者だけでなく世界中の子どもたちに良い影響をもたらすと思います。NHK に取り上げられたCNNヒーローにお会いでき大変光栄でした。



淀橋教会

長い歴史を持つ淀橋教会でもエフレン氏はプロジェクトを語る講演を持ちました。音楽ゲストの「コパン」と共にフィリピンの危機の中にいる子どもたちのためのサポートを募りました。



「エフレン氏はさまざまな本を手押し車の教室で運びますが、一番人気なのはマンガです」
 NEWSLINE

「非行少年や、簡単な読み書きさえできない子、ギャングに入っていた子どもたち、見捨てられた子どもたちが、今や教育を求める子どもの良い模範となっています。私の希望はこのような子どもたちをもっとたくさん育て、それによってもっと、もっと、もっと良い、新しい世代を目にすることなのです。」

エフレン・ペナフロリダ

「この本は日本にある団体（新生宣教団）のオリジナル作品。団体のスタッフが開発途上国の子どもたちに何か貢献できることはないかと考え作りました。文字は英語ですが、この教材には日本のマンガ文化が反映されています」

NEWSLINE

NHKの取材

NHKの英語ニュースチャンネル「NEWSLINE」はスラム街に住む子どもたちへの教育について取り上げ、エフレン氏は取材のなかでマンガを教育に取り入れた意義やクリスチャン向けの教材として効果が期待できることなどを話しました。番組ではマンガが手押し車の教室にふさわしい教材であることが強調され、子どもたちの喜ぶ姿が配信されました。





■手押し車の教室におけるマンガ教材

手押し車の教室

手押し車の教室は週1回、バスケットコートや市役所の前、週末は使われないビルの前など、さまざまな場所で開かれます。期間は6カ月で、これを修了しておくくとスムーズに学校に復帰できます。

各授業は2～3人の大学生ボランティアが受け持ち、クラスは5～7歳、8～10歳、11～12歳、13～15歳に分けられ、各年齢枠に担任の先生が1人付きます。

授業内容

授業は1回2時間で、国旗掲揚式で始まります。授業は次の3つのセクションに分けられます。

遊ぼう! 20-25分	始業のためのセクション。ゲームや遊びをと おして子どもたちの勉強意欲を高めます。
冒険しよう! 20-25分	「マンガストーリーブック」や他のアイテム を使って授業をおこないます。
考えよう! 15-20分	さまざまな練習を重ねながら前のセクション で学んだことを実行します。

教材



ザ・メサイア:

イエス・キリストの誕生、生涯、死と復活を
聖書に忠実にマンガ化した小冊子



スタディガイド:

「ザ・メサイア」を6つのパートに分けて
学習できるガイドブック



マンガストーリーブック:

16の聖書のストーリーから構成
され、テーマと問題が付いた紙芝
居形式の教材



エフレン・ペナフロリダ氏が解説 する教材としてのザ・メサイアと スタディ・ガイドの効果



フィリピンの危機の中にいる子どもたちが型にはまらない学びの場を得るためにエフレン氏の豊富な経験による教材の評価がなされました。「ザ・メサイア」や「スタディガイド」の教材としての効果や、これらの教材がいかに手押し車の教室でDTCの教育目標の達成に役立ったかをエフレン氏が語りました。「子どもたちのマンガへの反応」、「教材としての効果」、「子どもたちの生活の変化」、「子どもたちの必要」についてそれぞれ考えました。

●子どもたちのマンガへの反応

DTCの手押し車の教室の目的について聞かれると、エフレン氏は「子どもたちに学びに対する熱心さを与え、正規の学校に戻すことです」と答えました。活動の課題は子どもたちに勉強に対する情熱を取り戻させることで、小冊子「ザ・メサイア」と「スタディガイド」は子どもたちに新たな興奮と興味を与えていると言います。

「彼らはマンガだからこそ喜んで読んでいるのです。この教材なら彼らを授業に強く集中させられる。子どもたちは毎週参加して勉強したことを友だちと分かち合いたいと思っているのです。」

エフレン氏はマンガ教材が手押し車の教室で「一番好かれている教材」だと言い、NHKの取材でもマンガの人気を語りました。

「フィリピンの人々は日本のアニメが大好きです。子どものころから昼のテレビ番組を見て育ちます。子どもたちは馴染みのあるイラストで描かれた教材に心が引かれるのです。この教材は読むことに関心を持つ初めの良い一歩となります。」

●教材としての効果

教師と子どもが相互関係を築けるようにデザインされたマンガ教材をとおして、子どもたちは熱心に授業に参加するようになりました。教材の子どもたちへの効果についてエフレン氏は説明しました。

「教師にとって『マンガストーリーブック』は内容や背後にある道徳的価値観を説明するのにとても使いやすい教材です。ページの裏面にガイドがあるので、生徒たちと気軽に会話を持てます。いきいきとしたイラストははっきりとしてとても分かりやすいです。」

教師と生徒のコミュニケーションは授業のなかで子どもたちに自信を持たせるためにとても重要で、教師たちも、生徒との交流を深めることで相互関係の築き方を学びます。鮮明な絵は生徒たちの道徳の理解を助け、教材のなかにはレッスン・ガイドも含まれているため、教師も自信を持って教えられる。

前頁のつづき↓

●子どもたちの生活の変化

人生のなかで正しい選択ができるよう子どもたちに道徳を教えることはDTCの大きな目標です。子どもたちが関心を持つ絵をとおして彼らはストーリーに含まれている道徳的価値観を身に付けていきます。

「学んだこと全てを日常生活に生かせるようにマンガは子どもたちを導きます。親を敬い友だちを重んじることや、お互いに素直になり助け合いながら良い関係を築くなど、実践できることを教えています。」

マンガは貧困のなかで生活する子どもたちに道徳的指針を示します。この教材はとても良いタイミングで与えられたとエフレン氏は語ります。

「手押し車の教室はただ子どもたちに読み書きといった学びの場を与えるだけでなく、人生においてどのように正しい判断を下すか、どのように生活を向上させるか、また、なぜ親に従うべきなのかを教えます。子どもたちの人生を導くこのマンガ教材はとてもタイムリーな贈り物です。」

●子どもたちの必要

何よりもエフレン氏は子どもたちが現状から抜け出せるよう専心しています。多くは文字が読めないので、子どもたちを正規の学校へ戻すうえでマンガは大変ふさわしい教材だと思っています。

「マンガ教材は子どもたちに読み方を教え、読むことの楽しさをもたらします。正規の学校へ戻る前の良いスタートだと思います。本のなかにある絵によって英語や読み方を子どもたちに教えるきっかけが与えられます。」

エフレン氏にとってマンガ教材はただ子どもたちの教育的な必要を満たすだけでなく、彼らの日常生活を向上させるために必要な道徳や導きを与えているものなのです。

エフレン氏の結論

エフレン氏や関係者へのインタビューからマンガがDTCの目的である「子どもたちに学びへの情熱を与え、正規の学校に戻す」ことを実践できていることが確認されました。さらに、マンガ教材はただ子どもたちの教育的な必要を満たすだけでなく、彼らに道徳的な指針を与えていることが示され、手押し車の教室で子どもたちに読むことの楽しさを教え、正規の学校へ戻すための良い準備の土台を与えています。



プロジェクト関係者からの評価



DepEd プロジェクト・コーディネーター——リアンさん

子どもたちの宗教背景にかかわらずマンガ教材は受け入れられています。

「このマンガは子どもたちが抵抗なく使え、学びへの興味を引き出す教材です。とても革新的な教え方だと思います。マンガ教材はイスラム教の生徒にも問題なく使えます。文化を超えるメッセージ以上の魅力が教材に備わっているのです。」

ALS 教育プログラムスペシャリスト——ルイサさん

マンガが子どもたちを正規の学校に戻すためのとても重要な「第一歩」となっています。

「子どもたちは正規の学校へ戻るための準備をしています。マンガは彼らの精神的な成長を促します。自己管理能力を身につけることもでき、学んだことを学校での生活や友だちとの関係のなかで生かします」



マリカバン地区の責任者——オリムさん

子どもたちに必要な道徳の指導方法がマンガ教材には備わっています。

「私たちは皆、路上にいた子どもたちに家族関係の問題があることを知っています。マンガはこのような状況で生活する子どもの助けとなります。マンガをとおして教えていることが彼らの日々の生活指針となります。これは両親からも教わっていない、彼らが初めて知る価値観です。」



5～7歳担当のボランティア教師——グレイスさん(18歳)

マンガ教材を使い始めた時から子どもたちの授業に対する関心の度合いが変わりました。

「当初、子どもたちは勉強にまったく興味を持っていませんでした。マンガ教材は創造的な手法と具体例によって彼らに新たな可能性を与えています。マンガのイラストをとおして生徒たちは教材に深く興味を持ち、聖書に基づいた生き方を学ぶことができます。」



ボランティア教師——グレニスさん

子どもたちがマンガのお話と彼らの生活状況のなかに大きなつながりを感じていると、多くの先生方が言っています。

「マンガで描かれた絵本に出てくるお話では子どもたちの家や学校で日々体験していることが語られているので、生活のなかに当てはめていくことができるのです。」





マンガ教材をとおして変えられた 3人の生徒のインタビュー

エリエルちゃん

これまでは頑固で先生の言うことを聞きませんでした。今は変わりました。

以前は教わってもよく分からなかったことが、今は絵があるのでわかります。これまでに教わった素敵なお話を忘れないためにもマンガ教材を使いつづけたいと思っています。以前は先生の言うことを聞いていませんでしたが、今はマンガ教材があるおかげで授業がとてもおもしろいです。

学んだことは先生やクラスの友だちと話し合っています。今は人を助けたいと思っています。親戚でなくても他人を助けることをマンガ教材から教わりました。今はモーセのように、その人を知らなくても助けたいと思います。全ての人を助けたい。そしてこれまでは両親にも従っていませんでしたが、今はちゃんと言うことを聞いています。



エンジェルちゃん

今までとくらべてマンガに絵があるので先生の言うことがわかるようになりました。以前は先生がただ口頭で話をしているだけだったのでわかりづらかったのですが、今はマンガに絵があるので内容が良くわかります。マンガは読みやすいので好きです。心を落ち着かせることや、両親に従うこと、先生に丁寧に答えることを教わりました。一番好きなお話はイエス様が5つのパンと3つの魚で5,000人に食べ物を分け与えた話です。これはある物を他人と分け合うという心遣いのお話です。



ビクターくん

マンガをとおして様々なことを学びました。マンガが使われるまでは皆とてもおとなしく、授業に積極的ではありませんでした。授業では「年長者に何か頼まれても怒らない、彼らと言い争ったり悪態をついたりしてはいけない」ということを教わりました。まだこのことを知らない友だちには教えてあげたいと思っています。



マンガ教材がミンダナオ島の子どもたちへ

ミンダナオ島にある南アグサン州のシティオ・インシベイという村で手押し車の教室が開かれています。ここはフィリピン・ミンダナオ島南部に位置する、先住民タラアンティグの属する貧しい村です。健康管理や教育等、基本的なインフラが整っておらず村まで通じる道路がないため、タラアンティグ族のところに行くのは簡単ではありません。村は急勾配の斜面に囲まれた山岳地帯にあり、バイクで4時間、その後半日、60kmの距離を歩かなくてはなりません。

生計を立てる手段は農業と狩猟のみで、地域の男性は武装組織の誘拐の対象にされています。多くの子どもや若者が教育を受けられず、若すぎる結婚をしているのが実状です。彼らの望みは教育をとおして生活を向上させることです。活動は始まったばかりですが、マンガ教材が道徳授業のために使われ、村の人々に新しい人生の道を開いています。

授業と教材を提供して下さった支援者の皆様に子どもたちは喜びをもって感謝しています。「南アグサン州のシティオ・インシベイ、ティグバオ、ミントシングから皆様にご支援のお礼を申し上げます！」





プロジェクトの関係者からの言葉

教育省のリアン氏とDTCのジェリメイ氏が今後のプロジェクトの活動について話しました。

フィリピン教育省プロジェクトコーディネーター リアン氏の言葉

マンガ教材は道徳教育のためのとても力強いツールです。この働きは行政機関、教育関連団体、非営利組織が一致して取り組む国際的なプロジェクトです。この協力関係は新たなもので、高い希望を持つこのプロジェクトが及ぼす影響について語るのは、現時点ではまだ早いでしょう。

私たちが実行しようとしているのは手押し車の教室を都心や町に作り上げていくことです。現在、社会福祉部と開発部が不登校となっている子どもが多い地域を割り出す作業にとりかかっています。この作業が完了した後も新生宣教団がつづけて教材を提供して下さることを願っています。

新生宣教団とすべてのボランティアの教師たちに感謝しています。まだ始まったばかりのこのプログラムを最後まで見届け、数カ月後にプロジェクトの効果を総合的に評価したいと思います。このプロジェクトが学校に通えない子どもたちを救うプログラムだとお考えいただけるなら、教育省を引きつづきサポートして下さるようお願いいたします。手押し車の教室のマンガ教材を広めていきたいと願っています。

ダイナミック・ティーン・カンパニー協力団体 パシヨニタス代表

ジェリメイ氏の言葉

このマンガは道徳に関して、また聖書に関する内容も充実しており、子どもへの教育効果が期待できます。この教材をとおして子どもたちにモラルを伝えるのは良い機会です。マンガのイラストは子どもたちにメッセージを伝えやすくします。私自身もマンガから学ぶことがあります。ガイド・クエスチョンなどを使うと子どもたちに効果的に教えられます。この教材があると授業の進行が楽です。

「危機の中の子どもたち」のために支援してくださっているこの国際的な協力関係をとおしてさらに多くの子どもたちがマンガによるサポートを受けられるよう願っています。近い将来、このマンガがタガログ語に翻訳され、引きつづき多くの子どもたちが正規の学校に戻ることができるよう期待しています。

総主事からのメッセージ

皆様のお力添えに 感謝申し上げます。



フィリピン教育省やダイナミック・ティーン・カンパニーと共におこなわれた、ホープ・フォー・リビング フィリピン「危機の中の子どもたち」をご支援くださりありがとうございます。

手押し車の教室という素晴らしい働きのためにマンガ教材がフィリピンで用いられていることは私たちにとっても大変光栄なことです。教室で必要とされていたマンガ教材を提供する事ができ具体的な協力活動まで導かれた事に感謝しております。また、マンガ教材が危機の中にいるフィリピンの子どもたちにとっても良い影響があったと聞き、喜んでおります。

3つの団体の国際協力により進められているこの働きの影響はすぐに途絶えてしまうものではなく、聖書に基づく道徳の授業は子どもたちの新たな価値観の形成を促し、彼らの人生に変化をもたらしていくことでしょう。

このプロジェクトに可能性を見出し、支援してくださった皆様のご協力に感謝しております。皆様のお力添えによりフィリピンの貧しい子どもたちに新たな希望と可能性が与えられました。今後ともこの働きをご支援くださいますようお願い申し上げます。

岩岡稔員

新生宣教団総主事 岩岡稔員



Tanggapan ng Pangalawang Kalihim
Office of the Undersecretary
Partnerships and External Linkages

Direct Line : (+632) 633-7207
Fax : (+632) 637-4211
Website : <http://www.deped.gov.ph>

March 31, 2016

MR. TOSHIKAZU IWAOKA
Chief Executive Officer
New Life Ministries

Dear Mr. Iwaoka,

Greetings from the Department of Education

The mission of DepEd is to protect and promote the rights of all children and youth who are not able to attend school for various reasons.

Thus, the department has embarked on a number of initiatives to reach out to the hard-to-reach learners and out-of-school children. One of these projects is the replication of the Kariton Klasrum replication in Metro Manila. I believe that these materials have conveyed the message of hope to the learners.

On behalf of the DepEd, I would like to express our sincerest thanks to the New Life Ministries for the "Hope for the Living" project which provided Manga materials to the beneficiaries in Metro Manila. I believe that these materials have conveyed the message of hope to the learners.

Thank you very much for the partnership and support for the project.

Very truly yours,


MARIO A. DERIQUITO
Undersecretary



岩岡様

フィリピン教育省からご挨拶申し上げます。

フィリピン教育省の目的は全てのフィリピン人の子どもに充実した、正規で、文化的で完全な基礎教育を選択する権利を、子どもたちのために守ることです。しかし、貧困や他の様々な事情のなかで、学校に通えない子どもがたくさんいることも事実です。

このような危機の中で、私たちは支援が届きづらい路上生活をおくる子どもたち、学校に通っていない子どもたちに手を差し伸べる活動を実地しています。そのうちの1つが、2009年のCNNのヒーロー・オブ・ザ・イヤー受賞者、エフレン・ペナフロリダ氏が設立されたダイナミック・ティーン・カンパニーとの協力をとおして実地されるカリトン・クラスルーム(手押し車の教室)の支援活動です。

フィリピン教育省を代表して、マニラ首都圏の手押し車の教室のためにマンガ教材をホープ・フォー・リビング(フィリピン「危機の中の子どもたち」)とおして提供して下さった新生宣教団に感謝申し上げます。子どもたちのモラルの形成と希望のメッセージを届けるためにこの教材が豊かに用いられていることを確信しています。

また、皆様のご協力に感謝いたします。このプロジェクトのための引き継ぎのご支援をお願い申し上げます。

フィリピン教育省、次官 your continued support
マリオ・エー・デリキート



Dynamic Teen Company

188 J. Miranda St. Caridad, Cavite City 4100 Philippines
Tel. No.: (046)431-5263 Email Add: pushcartclasses@gmail.com Website: www.dtc.org.ph



Message from Efren Peñaflorida, Director of Dynamic Teen Company

We at Dynamic Teen Company thank you for making this project possible. We are truly grateful for the support we may reach out to the many children who are in need of this great gift to us, and it draws the attention of the children in the pushcart. The children love learning.

What we are seeing is that the project is really helping the children love learning, to learn good moral values, and to have a relationship with Him. The teachers also learn to teach the love of God in a more creative way.

We are excited for the future of the project as we set up around the country with the help of the government. We will see the Manga be used in many new sites in the Philippines.

I thank New Life Ministries for providing this material, as we have been praying for a material such as this for the pushcart classroom. I believe that this material will greatly help the children but also faith.

Thank you very much for your help and support as we continue to serve the children in need with the Manga!

Sincerely,


Efren G. Peñaflorida, Jr.
Dynamic Teen Company



プロジェクトにご協力いただき、ダイナミック・ティーン・カンパニーのスタッフ一同、感謝申し上げます。また、生活に苦しんでいる子どもたちのために支援の手を差し伸べる、この協力活動にも心から感謝しています。マンガは私たちに与えられた尊い贈り物であり、子どもたちの関心を引き、手押し車の教室でも人気の教材です。子どもたちはこの本が大好きです！

このプロジェクトは子どもたちに大きなインパクトを与えました。勉強に対する熱意が与えられモラルを知りました。教師たちも教材の内容から多くを学び、隣人愛をよりクリエイティブな教育手法によって伝えることができるようになったと思います。

またフィリピン教育省の協力をとおしてフィリピン全国に手押し車の教室が増えていき、新しく教室が設立される地域においてより多くのフィリピンの子どもの人生がマンガ教材をとおして変えられていくという展望が与えられ、このプロジェクトの将来に期待が高まっています。

新生宣教団からの教材の提供を感謝しております。個人的にも手押し車の教室にふさわしい教材を願っていました。皆様のご支援にも感謝申し上げます。マンガをとおした子どもたちへの今後の支援活動にも期待しております！

エフレン・ペナフロリダ

ダイナミック・ティーン・カンパニー head of us with the Manga!

ご支援いただきありがとうございました！

会計報告

収入	Amount (US \$)
国内献金	28,000
海外献金	13,000
合計	41,000
支出	Amount (US \$)
印刷費	20,000
発送費	11,000
管理費	10,000
合計	41,000

2015年12月時点の統計報告

手押し車の教室の数

1421

生徒の数

Project Reach: 8,000 students

44

マンガ教材が
配布された箇所

Project Reach: 100 sites

配布状況

2499

マンガ教材の配布数

8000

聖書の配布数



ニューライフ ミニストリーズ
新生宣教団
New Life Ministries

New Life Ministries

新生宣教団は1954年にここ日本で設立され世界に向けて福音文書の印刷を行っている団体です。埼玉県にある印刷工場で現在、6カ国、50人のスタッフが働いています。高機能な高速輪転機を使うことで、世界中に福音文書を提供するという大きな役割を果たしています。



New Life Ministries

〒350-0303 埼玉県比企郡鳩山町熊井170番地
TEL 049-296-0727 FAX 049-296-6515
E-mail : info@newlifeministries.jp

www.newlifeministries.jp

SNS はこちらから



Facebook



Twitter

www.facebook.com/NLM.jp

[@NLM_jp](https://twitter.com/NLM_jp)